

# まちのフキ情報

(株)小田原工務店で出会ったいろんな事を紹介したいなあって

前回、ご紹介した(株)天童さんからのご紹介で、豊後大野市大野町の運送業

## 工藤産業 株式会社さん をご紹介します。

長きにわたり地域産業を支え、今年で創業72年を迎える工藤産業 株式会社。かつて製材所として産声を上げた同社は、時代と共にその形を変え、現在は九州管内から遠く関西まで重機等の運搬を担っています。今回は、3代目として会社を牽引する代表取締役の工藤誠司さんに、これまでの歩みと仕事への熱い思いを伺いました。

### ★ 夜間運転の苦勞、それを上回る『出会い』の喜び

運送業の最前線でハンドルを握る工藤社長。仕事の厳しさについて尋ねると、「やはり夜間の運転には気を遣います」と語ります。しかし、その苦勞を上回る喜びがあるといます。

「この仕事を続けてこられたのは、本当にさまざまな方々との出会い、そしてそこから生まれた繋がりがあったからです。人との縁が、私をこの道に導き、支え続けてくれています。」

### ★ 『辞めたい』を超えさせる、頼ってくれる人の存在

仕事で困難に直面し、「辞めたい」と思ったことは何度もあります。それでも工藤社長がハンドルを握り続ける理由は、明確です。「自分を頼って来てくださる方々がいる。その期待に応えたいという思いが、私を奮い立たせてくれます。」



もし運送業以外の仕事を選ぶとしたら、意外にも『焼き鳥屋さん』を挙げる工藤社長。「どんな仕事も地道な努力をが大切。お客さまが喜んでくれるのが一番嬉しいですね」と、食を通じて人との繋がりを大切にする姿勢は、運送業に通じるものがあるようです。

### ★ リフレッシュは銭湯と、ふらり長崎へ

多忙な日々を送る工藤社長の休日の過ごし方は、「銭湯やサウナでリフレッシュすること」だそうです。そして、運転が苦にならないので、「ふと、ちゃんぽんを食べに長崎まで。なんてこともあります。」と、朗らかな笑顔で語ってくれました。

### ★ 最後に一言

「小さくすることが大きいことだと思っている。もったもった必死に働くことが、今の世の中大切ではないでしょうか。」



バイクの趣味もあるそうです

顔出しLNGの社長の代わりに

工藤社長、ありがとうございました。これからも、よろしくお願いたします。

## 編集後記 小野で〜す

日中の暑さに比べて、朝・晩は肌寒さを感じているのは、私だけでしょうか…?

私には、少々キツイ日が続いています。花粉症がやっと終わったと思ったら、今度は「寒暖差アレルギー」。お鼻がどうかないそうです(苦笑い)

家の近く、6月なのに「ひまわり」が咲いてました。ちょっと早いなあってなんて思いながらシャッターを切り、季節の進みが早いことを実感してます。暑くなって来ました。皆様、熱中症に十分お気を付けて下さい。



# スマイルだよりだよ😊

4号

株式会社 小田原工務店

〒879-6422

大分県豊後大野市大野町小倉木1183

TEL/070-4415-5567 FAX/0974-27-5255

～笑顔とともに 一生懸命な家づくり

皆さまのもとへ 笑顔を届けたい～

令和7年6月吉日

## 棟梁のつぶやき

櫻の便りが聞かれる3月には、「おおいたシラシンケンProject」の事業説明会を無事に執り行うことができました。お忙しい中ご参加くださいました協力業者の皆様、そして日頃よりお引き立ていただいております皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。皆様のご理解とご協力のおかげで、説明会は盛況のうちに幕を閉じることができました。

また、本プロジェクトにご賛同いただき、温かいご協賛を賜りました皆様には、心より感謝申し上げます。皆様のご支援が、プロジェクト成功への大きな力となります。

プロジェクトのメンバー代表の5名



事業説明会 協力業者さま皆さんと

いよいよ本格的に動き出した「おおいたシラシンケンProject」は、私たち5社が力を合わせ、地域社会の発展に貢献することを目指一大プロジェクトです。各社の強みを集結し、これまで培ってきたノウハウを最大限に活かすことで、必ずや皆様にご満足いただける成果を生み出す所存です。

このプロジェクトを通じて、新たな価値を創造し、地域の活性化に繋がるような、未来を見据えた取り組みを進めてまいります。社員一同、心を一つにして、プロジェクトの成功に向けて邁進してまいりますので、今後の展開にご期待ください。

### 父、心のつぶやき

次男が就活に入った。ひょーひょーとしている分、何とかなるかなあー

梅雨に入り、じめじめとした日が続いていますね。日ごとに増す暑さに、体調を崩しやすい時期でもあります。本格的な夏はもうすぐそこ。今のうちから熱中症対策をしっかり行い、来る暑い季節を元気に乗り切りましょう!

知ってる人も知らない人も  
**よろしくお願いたします**

今回、紹介するのは・・・

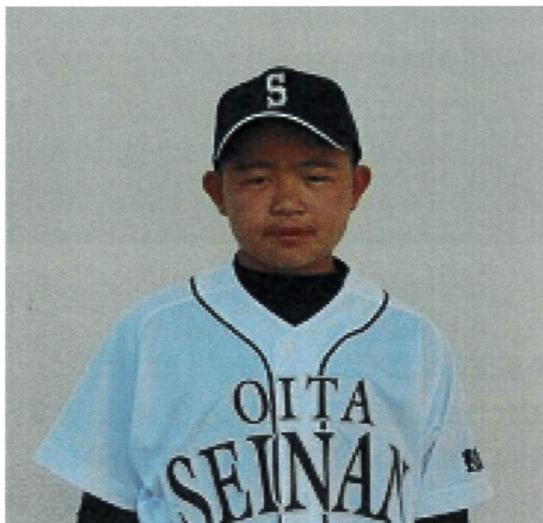
オダワラ タクミ

**小田原 巧**

苗字を見てわかるように、社長の小田原 哲也・由佳さんの長男として2002年6月30日誕生。

物腰柔らかな雰囲気、皆をホッとさせる巧さん。社交的な次男さんとスポーツマンの妹さんに囲まれ育ったからか、どこどなくおっとりとしていて優しい、まさに長男気質です。

専門学校を何とか卒業後に一度就職を経験し、その後は「フラフラするよりは」と当社へ。



社長であり父親でもある哲也社長より、小さい頃の話聞いてみました。

子どもの頃は「おとなしい子」だったそうです。自分から積極的に何かをするタイプではなかったとのことですが、そんな幼少期から一貫して打ち込んできたのが野球でした。小学校から高校まで、野球部に所属し、地道に練習を続けてきたそうです。

特にお父さんの心に残っているのは、小学校最後の大会でのエピソードです。普段はなかなかバットに当たること少なかったという巧さんが、なんとスリーベースヒットを放ったのです。この一打は、お父さんにとっても嬉しい出来事であり、今でも鮮明に覚えているとのこと。

このエピソードは、巧さんの人柄をよく表しています。派手さはないかもしれませんが、コツコツと自分のペースで物事を続けられる、粘り強さをもった方です。その真面目さと継続力で、着実に成果を出してくれそうです。



- ★ 好きな食べ物・・・鶏肉
- ★ 嫌いな食べ物・・・ナス
- ★ 今、気を付けていること・・・ケガ
- ★ 好きな言葉・・・一喜一憂
- ★ 家族に思うこと・・・ケガと病気に気を付けて
- ★ 会社に思うこと・・・アットホームな会社



じからのペコリ



**ちょっと知って**

なあって、私もよく知らない

「木から家になるまで：いのちを宿す木のものがたり全6話」

木が私たちの住まいとなるまでには、長い年月と多くの人々の努力が詰まっています。ここでは、一本の木がどのようにして温かい家になるのか、その道のりをご紹介します。今回は3話まで

① 森で育つ：大地の恵みを受けて

家になる木は、まず森の中で苗木から大切に育てられます。太陽の光を浴び、雨や土からの栄養をたっぷり吸い込んで、何十年もの時間をかけて大きく成長します。この間、手入れをする人たちが定期的に関伐を行い、木々が健全に育つよう見守っています。



② 伐採と運搬：大地の恵みを受けて

家を建てるのに十分な大きさに育った木は、適切な時期に伐採されます。これもただ切るだけでなく、森の環境を守りながら、計画的に行われます。伐採された木は、重機やヘリコプターなどを使い、山のふもとにある製材所へと運ばれます。

③ 製材：木材の誕生

製材所では、運び込まれた丸太が、家の材料として使いやすいように加工されます。丸太の皮をむき、目的に合わせてのこぎりで板や柱などの形に切り出されます。このとき、木の個性を見極め、それぞれの部分が持つ特性を最大限に活かされるように加工されます。

続きは、次回号で

**(株)小田原工務店 7千情報**

その② ホームページができました。

まだ、出来たばかりで情報は少ないですが、覗いてみてください。



その③ 亀井さんの太ももに異変が・・・Σ(°Д°)

大きく腫れ上がった太もも。おでき？切って膿を出したそうです。とてもいたそうでした。実際、痛かったようですが・・・



その① 久しぶりに、切込からのお宮新築工事。山奥の作業場でコツコツみなで切込をした5月初旬。のみの音が響いていました。製材もしました。



その④ 巧くんが、市の消防団に入団。新入団員辞令交付式にて42人代表として辞令を受け取りました。

詳しい内容は、5月31日の大分合同新聞で見てください。

